

市役所北エリアの整備と管理運営について提案 緑町三丁目町会 会長 藻谷征子

近くに暮らしていると、北エリアの環境が良くなることはとても重要です。ただ、いつまでも良い環境を維持し、いつでも気持ちよく利用できるようにするためには、ここに集う全ての人の共通理解が必要だと思います。

そこで、全ての人が共有する考え方を提案します。

『北エリアは、3方よしエリア』

好きなことをする人がいる。 (①利用者)

それを見て楽しむ人がいる。 (②観覧者、見学者)

その光景を眼にした人も好ましく思う。 (③住民や通りかかった人)

北エリアで行われるあらゆる機会において、3方よしの状況をつくる。

それにより、利用者、関係者間の相互理解を深め、

地域に活力を生み出し、地域力を高める。

北エリアの全ての利用者、関係者は、この理念のもとに活動する。

この理念を成り立たせる環境整備や管理運営を行う。

具体的には、北エリアを次のように管理運営する。

【管理運営について】

北エリアの利用を調整する場（仮称：北エリアフォーラム）を設ける

- 各施設の管理運営主体と、利用者の参加による。(例) 学校開放施設運営委員会
- 理念を共有し、相互の利用を調整し、各施設利用者への周知を図る。(例) 現在、自由利用が前提の施設を、イベントなどで占有利用する場合、事前に各施設管理者から利用者に周知を図るなど。
- (仮称)北エリアフォーラムのもとに、次のように利用できるようにする。

①現在、予約して占有しなければ利用できない施設、部屋について、予約がない時は自由利用とする

- 自由利用する際は、全ての利用者と一緒に同じ時間、空間を分かち合う気持ちを大切にして、いつでも、誰でもそこに参加したり、対話したりできる、常に外に開かれた活動とする。(例) 公園での子どもの遊び。「いれて」、「いいよ」の関係。

②予約占有利用で稼働率が高い施設の場合、定期的に自由利用できる機会を設ける

- (例) 子ども向けのテニス体験・クリニックに、予約なしで自由に参加できる機会を定期的に設ける。

③同じ北エリアの施設同士、利用を融通し合う

- (例) コミセンのイベントの際にはテニスコートを使えるようにする。

④北エリア全体を使った事業を企画、実施する

- (例) クリーンセンター祭りを北エリア全体で行う。

提案理由

「第Ⅲ期施設・周辺整備協議会報告書」（平成 28 年 4 月）

5.今後の方向性（1）基本的考え方より

市民参加による現施設建設用地の選定、住民主体による施設周辺まちづくりの検討によって、周辺住民と市の信頼関係を育み、現在の運営協議会に続く協働の歴史を築いてきた。この点は、今後も継承し、さらに全市民的な広がりへと発展させていくべきことである。

一方、「すべての市民が必要としながら、近くにあってほしくない施設というマイナスイメージ」、「ごみを減量化し、クリーンセンターの焼却量を減らして環境への負荷を低減していくことへの全市民的理解の醸成不足」、「市役所北エリアにある軟式野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターの利用とクリーンセンターのごみ焼却の現状への相互理解の不足」といった課題については、解決に向け、今後も努力し続けなければならない。

「エコプラザ(仮称)事業のあり方中間まとめ」（平成 29 年 2 月）より

すべての市民が利用することでごみ減量化、低炭素化に向けて行動を起こす（つかう・ふれあう）

開かれた場・通常は自由利用 使い勝手のよい空間・必要に応じて区切って使用できる

（1）北エリア利用の現状

- 北エリアにある市民が利用できる施設には、利用方法の違いによって、占有利用施設と自由利用施設の2種類がある。
- 占有利用施設は、予約して占有しなければ利用できない施設。野球場、テニスコート、緑町コミセンの和室、会議室、音楽室等がこれに当たる。いずれも利用できる時間帯に定めがある。
- 自由利用施設は、誰でもいつでも自由に利用できる施設。緑町ふれあい広場公園、ランニングコース、緑町コミセンのホール、学習室がこれに当たる。この中には、所定の手続きを行うことで一定期間占有利用できる施設もある。（所定の手続きを経ずに、特定の利用者が占有利用してはいけない施設）

（2）現状の問題点

【占有利用施設】

- 占有利用施設は、「利用者」が利用するだけの場所になっている。「住民や通りかかった人」が好ましいと思う状況はほとんどない。利用しない人にとっては、「関係ない場所、施設」になっており、一方、利用者にとっては、周辺のことは関係ない、意識に入らない状態。このような状況からは、相互理解は生まれにくい。
- 予約占有しなければ利用できないということは、予約した人しか利用できないことを意味する。予約できた人以外の利用を排除することから、利用者が限られ、利用者同士のコミュニケーションは生まれず、地域力を高めることにならない。
- 占有利用施設において、予約がないときは単なる空間がそこにあるだけの状態。そこに活動がなければ、地域に活力を生み出すことはできない。

【自由利用施設】

- 自由利用施設をイベント等で占有利用するときに、事前の周知や調整が不十分なため、混乱するケースがある。

【共通】

- 現状では、各施設の管理運営主体が、それぞれに、それぞれの「①利用者」の視点で管理運営しており、「②観覧者、見学者」や「③住民や通りかかった人」への意識が乏しい。
- 新クリーンセンターとエコプラザ以外の管理運営主体は、相互理解不足という課題を認識していない。北エリアで行われる活動を通して、地域に活力を生み出し、地域力を高めるという視点を持ち得ていない。
- 以上の状況を変えないと、物理的な環境整備を行っても、相互理解不足という課題は解決できない。野球やテニス利用者等がエコプラザや新クリーンセンターに足を運ぶことは期待しにくい。

(3)改善の考え方

- 野球を例にとれば、野球という個人的な楽しみ(①の視点)が、観戦する人を楽しませ(②の視点)、さらに、通りかかった人も、その平和な賑わいの光景を見て、何となくホッとさせられる(③の視点)。
- 住民や通りかかった人にとっては、そう感じた時に初めて、その場所が地域にあることに価値を感じ、親しみを覚える。今はそれがないから、利用しない人にとって関係ない場所、施設になっている。
- 占有利用であっても、自由利用であっても、北エリアを利用するすべての人が、他の利用者、観覧者・見学者、住民や通りかかった人と、同じ空間、時間を分かち合おうと意識し、配慮して行動することが必要。
- 3者にとって好ましい活動とするためには、お互いへの配慮やコミュニケーションが必要で、そうしたことが地域力を高めることにつながる。それによって、地域に活力が生まれる。
- 以上を踏まえて、環境整備、管理運営の方法を具体的に検討する。管理運営については、前述のとおり。